

パンタール通信

南北米福地開発協会

会報

2007年7月1日

46号

温暖化による海面上昇の影響を受ける国々



ツバル、フナフチ環礁の島の様子。ツバルでは海岸浸食の他に、タロピットという主食の芋畑に海水が入り込み、作物が育たなくなる等の被害が始めており、自給自足の生活をしているツバル人は、島が沈むより前に食べ物が無くなって人が住めなくなってしまうことを心配している。

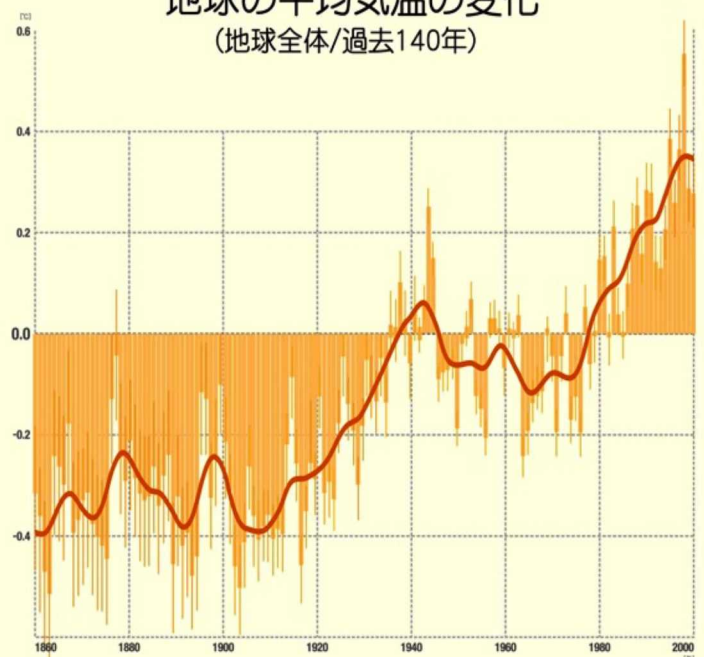
温暖化によって海没が心配されるサンゴ礁の島々、中部太平洋マーシャル諸島マジュロ環礁



モルディブ共和国は、スリランカの南西、約1200の島々がいくつもの環礁をつくってつながっている。島々全てサンゴ礁と海洋生物起源の砂でできている。満潮時の平均標高が約1.5メートルしかない。主産業は漁業と観光業、人口約29万人。



地球の平均気温の変化 (地球全体/過去140年)



※ 気温は1961～1990年の平均からの気温の偏差を表す
出典) IPCC第3次評価報告書

地球温暖化対策の一環としての レダでの植林活動

高津地球の緑を守る会理事長

レダへ出発

『パンタナール植樹のため、六月七日のフライトでレダに出発します。』

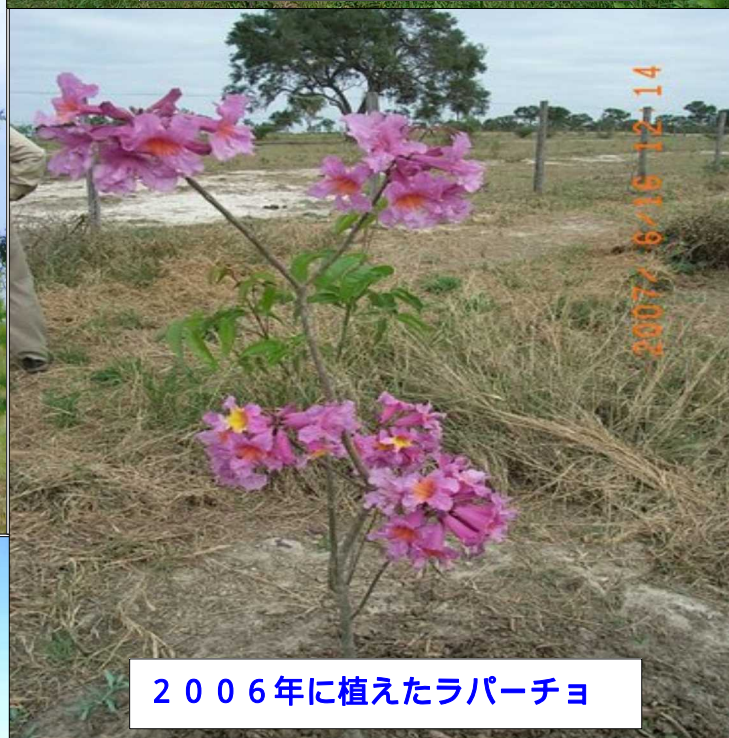
今回は二〇〇〇年から始まった記念樹募集の最後となり、多くの皆様からの応募とご協力をいただきました。心からお礼申し上げます。計画としては七月いっぱい現地に滞在し、新規の植えつけとともに、累計二〇〇〇本におよぶ木の生育状況のチェックと植樹園の管理作業を行なってくる予定です。環境破壊が深刻な時代に、緑の会が取り組んだレダ・パンタナール地域は、アマゾン熱帯雨林とともに、世界が力を合わせて守らなければならぬ貴重な生態系です。もうこれ以上の汚染や破壊は許されない聖域です。現在の森林を保護するだけではなく、ここに積極的に木を植えて新たな森を育てなければなりません。地球温暖化をストップさせるための大切なプロジェクトとして地道に努力を続けていきますので、これからもあたたかく見守ってください。』



植え計測 2003年に植えつけたユーカリの木



2002年に植えたチバトの木



2006年に植えたラパーチョ



第一船着場から本流沿いに、海軍警備所前を通過して、修練所裏手に至る土手道を作るため、土を掘ったが、そこは中に島のある池を作り、その周りを緑地帯にして植樹もし、美しい公園を作っていこうという計画で工事が進められている

田岡在日パラグアイ大使を訪問

レダにてジャトロファの植え付けを行い、先日、インドまで行き、研究してきた伊達さん、そして地球の緑を守る会の戸石事務局長とともに六月十二日、久しぶりに、田岡大使を訪問、レダでの進展状況、ならびに青年ボランティア隊の今年の計画等を報告して来ました。

大使はジャトロファ、ニームにも関心が深く、すでに、パラグアイラパス市にある息子さんの農園では、ジャトロファの栽培とニームの植林を始め、将来の可能性を研究しているとのことでした。パラグアイ政府もバイオエネルギーにはことのほか、大きな関心を持っており、バイオエネルギー精製のプラントも建設しているとの事です。また、苦勞してきた日系一世が老後を楽しく過ごせるような温泉つきの施設（日本からの老後の介護施設をかねて）を建設する事を日本の医療機関とも話し合い、具体的に準備をしているとの事で、そのためにパラグアイの地質調査を行い、どの地域から温泉が出るかの調査も終わり、その地図が既にできていました。

私達の開拓しているレダ、チャコ地方も温泉が出る最適な地域であると記されておりました。以前から飯野事務総長が言われていたように難病に効く薬草温泉の可能性も十分あるとの感触を得ました。また、最近、日本人がパラグアイにて拉致された誘拐事件があったばかりなので、治安状況をお聞きした所、先回の誘拐事件は現地に住む、お金持ちを狙う強盗団で、日本から来た青年達のように金の無いものを、それも観光客を狙う事は無いので心配は全くないとのことでした。



国連大学で行なわれたニームの木を世界に普及する為の集会に参加

日時 二〇〇七年五月二四日（木）
会場 エリザベス・ローズホール

農業委員会の林先生と柴沼は国連大学で行われた国連とニーム協会、共催のシンポジウムに参加して来ました。講演をされた方は国際色豊かでアフリカ、アジアからも参加しておりました。歓迎の挨拶にはタンザニアの大使や参議院議員が来ておりました。参加者は一〇〇名を少し越える人数で、学者、会社の社長に交じって若い方も多くおりました。

日本のニーム協会ではニームを如何に日本で産業化するかに関心があり、その関心の元に来ている事業関係のひと、国連が関心を持つ、ニームを発展途上国発展の為に付加価値のする事業として起こすことが出来ないかに関心がある人が来ていたように思います。アフリカからの講師はアフリカを助けるという姿勢でなく、お互いが助け合っていく道を探して行く姿勢で対応して欲しいとの要請をしておりました。



質問とコメントの時間になり、南北開発協会では南米、パラグアイでジャトロファとニームを植え、バイオディーゼル精製のための準備をし、ジャトロファの畑をニームで防虫し、またニームの葉を肥料にする道はないかを研究しているところだと報告をしました。参加していた方がかなり関心を持たれ、会の終了とともに四十五人の方が名刺の交換に來られました。

第7回 国際協力青年ボランティア隊

期 間：2007年8月19日(日)～9月5日(水)

ボランティア隊支援のお願い

8月19日に出発する国際協力青年ボランティア隊の募集が終わり、多くの方が参加を希望してこられました。現在、その中から選出して7名の青年学生が現地に行く事になります。

スタッフがアメリカから現地に既に到着し、植樹の木の選定、ならびに買い付けの準備、そしてオリンポ市の市長、学校長と話し合いをしを具体的な計画を練っています。

支援の集まりが厳しい為、7月末まで継続する事になりました。宜しくお願いします。

南北米福地開発協会事務局 〒213-0001
川崎市高津区溝口3-11-15 岩崎ビル4F
電話044-829-2821 ファックス829-2820
支援金振込先 会費納入

E MAIL office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp

郵便口座

10180-

77680471

代表 柴沼邦彦

参加予定者の小論文

『南米の森林伐採の問題や牧場開発などの現状がある。パンタナールの植樹活動を通して、地球環境を守る実践をさせていただけの良いチャンスだと思った。パンタナールは日本の裏側に当たり、地球最後の秘境と言われている。』

その場所を一目みたいという興味、好奇心がある。どのような人達が住んでいるのか、大自然の気候や生態系を肌で感じたいと思った。大学時代の今しか体験できない世界があると思う。私は大学で農業について学んでいる。世界の食料問題は深刻さを増してくる。将来自分は農業をして食料生産をして行きたいと考えている。これからは環境を守りながら農業をして行く時代である。この国際協力青年ボランティアに参加することにより、自分の視野を広め、パンタナールの緑化に是非貢献したい。』

『レスターブラウン プランB』『エコノミー』を指してより

二〇〇一年8月に北京で発表された地下水の調査結果によると、中国の小麦の半分以上、トウモロコシの三分の一を生産する華北平原では、報告されていたよりも速いペースで地下水位が低下している。過大な揚水で浅い地下水層がほぼ枯渇したため、深い地下水層まで井戸を掘り下げざるをえなくなるが、先に述べたようにこうした深い化石帯水層は一般的には地質構造からして降水などで補充されない。中国では、地下水位の低下および耕地の非農業目的への転換と、工業化が急速に進む地域での農業労働者の減少によって、穀物生産が縮小している。小麦はおもに中国北部の乾燥地帯で栽培され、水不足にはとくに弱い。小麦の生産量は一九九七年の一億二二〇〇万トンにピークに、その後八年間のうちの五年が減産となっている。二〇〇五年は二十三%落ち込んで、九千五百万トンであった。中国の穀物生産は史上最高となつ一九九八年の三億九二〇〇万トンから、二〇〇五年の推計三億五八〇〇万トンまで落ち込んでいる。減少分の三四〇〇万トンは、カナダの年間小麦生産量を上回る。政府は二〇〇四年まで、大量にあった在庫を放出して減産の大部分をカバーしていたが、その時点で、穀物を七〇〇万トン輸入した。

世界銀行の調査によると、中国では北部の三つの河川流域北京と天津を流れる海河、黄河、黄河の南を流れる淮河から過大に揚水されている。一般的には一〇〇〇万トンの水で一トンの穀物が生産できるから、地下水が枯れて、海河流域で揚水されている年間四〇〇億トン近くの水が不足すると、穀物生産量も四〇〇〇万トン減少することになる。これは一億二〇〇〇万人を養える量である。中国の黄河は全長約五五〇〇kmで5つの省を流れて黄海に注いでいるが、この数十年来、問題が山積している。海まで届かぬうちに流れが消えてしまうという「断流」が一九七二年に初めて発生し、一九八五年以降は頻繁に見られる。(参考資料)